

# 北海道 幕別町 町勢要覧

## 丘のあるまち 幕別町に暮らす

人と大地が躍動し  
みんなで築く  
ふれあいの郷土

## 丘のあるまちに暮らす人々

4 岡部さんご家族

8 塚本さんご家族

11 角谷さん×米家さんご家族

14 箕浦邦雄さん

## 町の農業

20 土に生きる人 折笠健さん

22 土に生きる人 井田留吉さん  
寿美恵さん

24 まちの農作物

25 くつろぎの時をつくる人 正田亜斗さん

30 幕別の地でお湯を継ぐ

34 まちの特産品

38 パークゴルフの町 幕別町

42 まちの憩いスポット  
お立寄りスポット

45 幕別町出身のスポーツ人

46 季節を魅せるビューポイント

48 まちの未来

50 施設インフォメーション  
イベントスケジュール

## 【コラム】幕別カルチャー

17 幕別町百年記念ホール

18 工房 十勝の木のうつわ

28 そば工房 百姓(笑)庵

29 ノースポール・ステイブル

40 パークゴルフ

41 忠類シニアファッションショー

## 丘のあるまちに暮らす人々

平たんで広々とした畑風景が広がる十勝の中にあって、幕別町にはなだらかな起伏をもつ美しい丘の風景があります。季節や時間によってさまざまな表情をもつ丘にあこがれ、ここに暮らすことを選んだ人たち。彼らの暮らしを通して見えてくる幕別の魅力を紹介します。



(左から)かおりさん、丈太くん(小6)、匡純さん、ことこちゃん(4歳)



## おかべ 岡部さん ご家族

丘のあるまちに暮らす人々

幕別町<sup>ふるまい</sup>古舞地区。なだらかな山と谷の織りなすその丘の上、カラマツ林に囲まれて岡部さん一家4人が暮らしています。牛舎に畑、水田までも。敷地内にある全てを楽しみながら暮らす岡部さん家族です。



家も庭も畑も  
自分たちらしく暮らすということ。

親子4人それぞれが顔を合わせて暮らす腰折れ屋根の住宅は、古くは馬小屋として使われていたもの。匡純<sup>まさずみ</sup>さん夫妻の手が入れられることで、風景にすんと馴染んで建っていました。その周りでは高さの異なる草木や花がにぎわいを見せ、裏手にはハウスの野菜畑に田んぼまでも。牛の保育業をなりわいとする匡純さんの仕事場である保育牛舎が2棟、さらにずんずん進む匡純さんのあとを追って歩いていくと、ぼかりと空が広がる畑に到着。このすべてが岡部家のフィールドです。

畑には小麦、陸稻<sup>おかほ</sup>、藍、ぶどう、亜麻などなど。庭造りに始まり、数えればキリがないほどの作物たちの栽培は、かおりさんの担当。愛車のパワーシヨベルを乗り回し、匡純さんいわく



室内に美しくディスプレイされた農作物は、一枚の絵画のよう。藍畑で採れた藍は乾燥させると、独特の色合いになります。(写真左)。



匡純さんの仕事は、生後7日目～約2ヶ月の間、牛を預かり育てる保育業。



小さな田んぼもかおりさんの趣味。刈り取りを終え乾燥させます。収穫の喜びはもちろん、失敗さえもまた次の糧に。それが作物を育てる面白さでもあります。

「ご飯の時間も忘れるほど」のめり込んでいるようです。

山口県出身の匡純さんは、帯広畜産大学を卒業。その後も十勝で仕事をしようと決めていました。学生時代の縁がきっかけとなりこの場所に根を張ることに。牛の市場も近く、市街地まで車で20分の距離にあるこの場

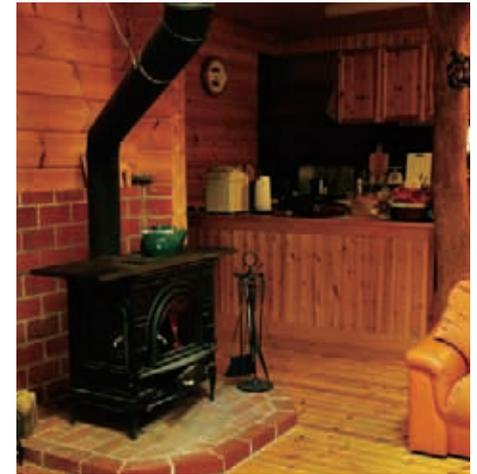
所が気に入っています。

「近所さんは農家ばかり。「住み始めの頃は慣れなかった」という、冬の夜に保護者で行う校庭のスケートリンク作りやさまざまな行事も、丈太くん、こここちゃんも育っていくにつれ自然と身にしみ、なじんでいくようになりました。

家族が暮らす家の中はというと、夫婦の共通の趣味である時を経た家具や雑貨が、少しの手を加えられ、ぴつたりと家に寄り添っているようで不思議と落ち着く空間に。収穫したあざやかな野菜や豆がディスプレイされ、こここちゃんの遊び道具にもなっています。この丘の上で暮らす岡部さん一家が、土地になじみながら自分たちらしいライフスタイルを持って過ごす日々、その暮らしは派手ではないけれど自分たちになしか作り出せない輝きに満ちていました。



(左から)長女真子(まこ)さん(中1)、次女奈那(なな)さん(小3)、由起子さん、長男好輝(こうき)くん(中1)、逸彦さん。



リビングの中心にある薪ストーブ。1台で家中が温くなる家族みんなのお気に入り。

## つかもと 塚本さん ご家族

丘のあるまちに暮らす人々

子どもたちを育てるなら、豊かな自然の中で。塚本さん一家は地域の人々の温かさや、結びつきに惹かれて途別地区にやってきました。



森とひとつきになっている塚本さん宅の庭。遊びの種があちこちに転がっています。くるとジロの家は、塚本さんお手製。

地域とともに暮らし、  
人々の中でのびやかに育てていく。

木々に覆われた途別の丘の上に、1軒のログハウス。塚本さん、妻の由起子さん、中学生になる双子の長男、長女、小学生の次女、加えてヤギのくると、犬のジロ、総勢7人の住まいです。無垢の木材で造られた家の中には、築数年経った今も柔らかな木の香りが満ちていました。薪ストーブの温もりとパチパチと火のはぜる音がとても心地良く、「夜がくるとすぐに眠たくなっちゃうんだよね」と笑う塚本さんの言葉にもうなずけます。

塚本さんは帯広市内の写真館に勤めるカメラマン。岐阜県の出身で、高校生の頃から毎年1〜2回ずつ北海道を訪れ、写真を撮りながら旅をしていました。旅行歴が20数年を数えた頃、北海道への移住を考え始め、仕事と理想の環境が重なる場所をと考えて辿

り着いたのが十勝・帯広でした。由起子さんとは霧多布の地で出会い、結婚。由起子さんも北海道の暮らしに憧れて、東京から霧多布に移り住んだ移住者のひとりでした。

帯広市から幕別町に越してきたのは、子どもたちが育つ環境を考えてのこと。子どもは自然の中で育てるのが一番と考えていた塚本さんは、子どもたちを途別小学校に入学させました。小規模特認校に指定されている同校は地域と自然に根ざした人間的な教育方針のもと、食農教育や芸術教育など教科書からは学ぶことのできないユニークな取り組みを行っている小学校です。当時は札内地区に住まいを置いていた塚本さんですが、学校行事を通して地域の人々と触れ合っていくうちに、土地柄に惚れ込み途別に住むことを決意したのです。

この地区は昔から稲作を行っており、必要な機材等はみんなで購入して

かどや こめいえ  
**角谷さん×米家さんご家族**

丘のあるまちに暮らす人々

3人の子どもたちに囲まれ、幕別の丘に広がる畑の一画で、日々、それはにぎやかな暮らしぶり。角谷悦章さん(41歳)と米家直子さん(37歳)がここに越してきたのは、5年前のことでした。



角谷さんと米家さんは共働きで、夫婦別姓のご夫婦です。樹環(こだま)ちゃん(5歳)、観理(みのり)ちゃん(3歳)、哲朗(てつろう)ちゃん(1歳)の3人の子どもたちと。

車に頼らず暮らしを営めるところ、日々の野菜は広い庭の一画から。

角谷さんご家族の家の敷地周辺にはなだらかな起伏をもつ丘が幾重にも広がっています。広々とした畑や馬の放牧地。畑と畑の間を彩るのは四季それぞれに美しい防風林。そして東側の少し先には、小高い明野ヶ丘公園も見えています。子育てをするには理想的とも思えるこの土地に出会えたことを角谷さんは「ほんとうに偶然！」と話してくれました。

6年前の冬、雪の降り積もったある日のこと。角谷さんは広尾町に用事があった、偶然この土地の前を通ることになります。すると、普段はよその地域で暮らしている土地の持ち主が、この日に限ってわざわざ遠くから足を運び、雪かきに精を出していたのです。土地を探していることを伝え、そこから交渉が始まりました。こうして、



途別の夕暮れ。あたりはとても静かだけれど、人々の暮らす気配が感じられます。

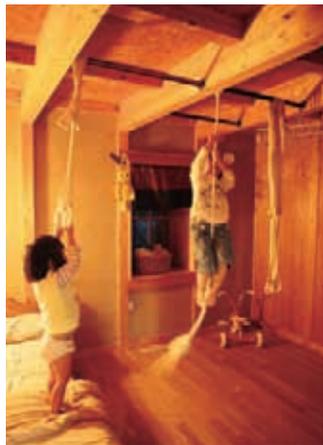


幕別町立途別小学校。現在、全校生徒は28名(2011年10月現在)。行事の度に地域住民が集まる重要な場所。



んなで使う共同作業が基本。また、稲作指定区域なので戸数が増えることもほとんどありません。そのため地域の人たちは何代にもわたって昔からの顔なじみであり、地域の子どもたちはみんな育てるという風潮が今も変わらずに受け継がれているのだそうです。自分の家の子どもでも他の家の子どもでも、同じように名前を呼び捨てにするし、叱ることだってあります。身近に暮らす人々がお互いに助け合いながら生活をしてきた、昭和の時代の温かな気風が当たり前のようにまだ残っているのです。

豊かに広がる森や山や畑、丘を通り抜けていく心地よい風と澄んだ空気が。そこで育まれてきた地域の中の信頼関係。かけがえのないものが当たり前のように日常に溶け込んだ環境の中で育てられた経験は、子どもたちにとって何物にも代えがたい財産になってくれるに違いありません。



土曜日。今夜のメニューはピザとカボチャサラダ。角谷さんはぐずり始めた哲朗ちゃんを背中におぶってキッチンに立ち続けます。ご家族の住まいはいわゆる「ストローベイルハウス」。断熱材としてわらのかたまりを積んだもので、断熱効果の点でも優れたもの。夏は涼しく、冬はポカポカという家で、樹環ちゃんと観理ちゃんは伸び伸び遊びます。米家さんの言うように、「将来的に考えて最大のゴミになるのが家」だとしたら、自然に選る素材で断熱効果を得ようとする試みは、子どもたちの将来の環境的負担を軽減してくれることでしょう。



角谷さん、米家さんご夫婦の家からほど近いところにある畑の風景。また、近くの明野ヶ丘公園からは幕別町の町並みはもちろん、遥か彼方には十勝岳や大雪山などの山々を一望に見渡すことができます。



樹環ちゃんが教えてくれただけでも、20種類以上はありました。「この場所は子育ての環境としてはとてもいい。物音がしないし、大きい声を出しても大丈夫。夜も思い切り遊べる」。そう話す米家さんの側を離れた樹環ちゃんと観理ちゃんは、天井の梁に結ばれたロープに足の指先をかけては、小さなターザンさながら、部屋の中を自在に飛び回ってはしゃいでいます。

子どもたちの時代に「ゴミにならない家をと、自然素材にこだわりながら建てた家。庭には現在製作中のツリーハウスの姿もありました。米家さんの父親が京都から通って来ては、孫たちのためにと作っているものです。この場所なら、どうやら子どもたちが伸び伸び、大らかに育つための環境に事欠くことはなさそうです。幕別の丘に包まれながらのご夫婦の子育ては、これからも続きます。



米家さんは来年のために、この秋収穫した豆の中から「種豆」を選び分けます。何と収穫した豆から自家製納豆まで作ってしまうとか。

上・中/秋を迎えた庭の畑。何と、川に近い林の中では原木シイタケの栽培まで。「自分で作ったものはおいしい。それに農薬を使わないで作るので、子どもたちにも安心して食べさせられる」。

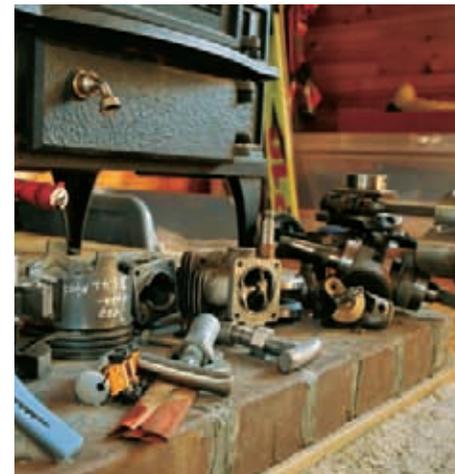
下/シリアンルーージュという品種のトマトもたくさん作っています。熟れたトマトが収穫できると、その都度ソースに加工しては冬の野菜として瓶詰め。「今のところ、100瓶くらいはあるかな」。

野菜作りは独学で始めたという米家さん。今では種を自家採取するなど、どこまでも自立的な野菜作りをしているようです。

角谷さんはずっと頭に思い描いていた「理想的な土地」を手に入れることができたのです。

「静かなうえ、街からも遠くないし、いいところだなと思った」。「田舎だけ歩いて駅まで行ける。車を使わないで生活できるところも気に入っている」。角谷さんと米家さんの口から飛び出てきたのは、それぞれに我が家自慢。家の周りはどこから見ても田園風景。それなのに、幕別の駅まではわずか徒歩25分ほど。「飲みに行くときなどにも列車を利用している」というのだから、我が家自慢につながるのうなずけます。

角谷さん、米家さんご家族の暮らしぶりは、一口で言うなら、「自然に即した暮らし」。春から秋にかけて、米家さんは広い敷地を利用してたくさん野菜を作ります。料理担当の角谷さんが「モヤシ以外は何でも作っている」と笑うほど、野菜の種類は豊富。



みのうら くにお  
**箕浦 邦雄さん**

丘のあるまちに暮らす人々

生まれた頃からこの地で暮らし、探求を続ける箕浦さん。その好奇心に満ちた日は、世界と未来を見つめています。



昔から飼っている、愛犬のフンタとビーゴ。すっかりおじいちゃん、おばあちゃんになりました。

「今、ここでできる何か」を日々追い求めていくこと。

箕浦さんは、御年61歳。高校卒業後すぐに家業を継いで以来、今も変わらずに農家を営んでおり、広々とした土地で小麦、大豆、でんぷんいも、スイートコーンなどを栽培しています。この土地から離れて暮らしたのは、高校時代に帯広市内に下宿していた3年間だけという、生粋の幕別人。13年ほど前ご両親が住む実家から一本道路を挟んだ場所に、長らく夢見ていたログハウスを建て、夢の城と実家とを行き来しながら暮らしています。

子どもの頃から機械が好きで好奇心旺盛。時計の仕組みが見たくて、家の時計をいくつも分解しては叱られていたというやんちゃ坊主でした。その気質はいまだ衰えず、家具でも道具でも、何でも自分で作ってしまいます。先のログハウスだって、基礎や枠組み

以外は全て自作というから驚きです。

何かに興味を持ったらどんどん追求していく箕浦さん。その機械好きな性格も趣味では終わりませんでした。若い頃にお姉さんがリウマチを患ったり、自分も膝を悪くしたりする中で農業機器や住まいに対して不便さを感じるようになった箕浦さん。高齢者や障がい者にとって使いやすく安全なもの、誰にとっても同様に使いやすいと安全だという考えからユニバーサルデザインに関心を持つようになり、6年前、大学院に入学。農業機器の研究に取り組み、最終的に農業博士号まで取得しました。その後、JICAの北方圏センターで農業機械についての講義を行うなど、本業以外にも活躍の場が広がっていきました。平成23年1月からは幕別町美川で公区长も務めるようになり、地域の声を取りまとめたり、交流の場を作ったりと忙しく過ごしています。

# 幕別町百年記念ホール

## 幕別 カルチャー

### 【施設概要】

※（ ）内は定員

- 視聴覚室(60)
- 特別会議室(28)
- 講堂(120~200)
- 和室2室(80/40)
- 茶室(24)
- 調理実習室
- 学習室2室(45/60)
- 絵画室(20)
- ギャラリー
- 木工芸室(18)
- 陶芸室(18)
- 音楽実習室(90)
- ホール  
(1階592席/2階208席)
- 控え室2室(5/40)
- 野外作品展示広場
- ◆図書館礼内分館



緞帳「十勝の春」。戦後日本を代表するグラフィックデザイナー・田中一光氏のデザイン。制作は明治27年創業の老舗、京都の「龍村美術織物」。



幕別町字千住180番地1  
TEL.0155-56-8600

## 人々の感性を育む拠点に

幕別町百年記念ホールでは、演劇クラシック、ジャズ、落語など、年間を通してさまざまな舞台が上演されています。平成20年から指定管理の委託を受け企画・運営に当たっている「NPO法人まくべつ町民芸術劇場」。彼らは数ある中から良質なものを選び出す、いわばソムリエのような存在。ここで上演されるのはスタッフ自身が面白いと思った公演だけ。良質な公演の積み重ねが信頼感を生み、「百年記念ホールでやるなら面白いに違いない」と町民がジャンルにとらわれずに足を運んでくれるようになってきたといえます。

充実した設備を活かし、小さな頃から質の良いアートに直に触れるきっかけを生み出し続けることが、町民の豊かな心と感性を育むことにつながります。その点で百年記念ホールは大きな役割を担っています。



写真右下/シンプルで、長く使える作りが気に入っているというミシンが2台。白糸用と、黒糸用。  
写真左下/倉庫には、おびただしい数の道具が、ここから常に新しいものが生まれている。

「身体は老いていくけれど、心は何かに興味を持っていれば全く老けないんだよ」。これまで苦労も多々あったといいますが、当手を振り返るその語り口調はなんとも愉快といった風。何を話すときにも、心から楽しそうな姿が印象に残りました。

農業者としてはまだまだ現役。体力の続く限り働くつもりだと言います。しかし、いずれは自身の経験を活かし、JICAでシニアボランティアとして海外で発展途上国の若者達に農業や農業機器に関する知識、技術を伝えるに行こうと決めています。

自分の限界を決めず、今の場所のできることを見つけていく。箕浦さんの世界はこれからもどんどん豊かに広がり続けてゆくに違いありません。

# 町の農業

肥沃で広大な土地を誇る幕別町の農業。熱い思いを持って生産を行う農家さん、幕別町ならではの農作物や加工品など、大きな魅力にあふれています。



## 工房 十勝の木のうちわ

幕別  
カルチャー



佐々木さんの原点ともいえる平皿。薄さを追求した定番商品。2人の息子さんが加わったことで、新商品の開発も活発化。全国のデパート催事や販売店での展示会など、出品するイベントは年間30回を超えるほどに。



幕別町字中里155番地(まなびや中里)  
TEL.0155-56-3123



写真左より允さん、要さん、匠さん。

十勝が育んだ木を魅せたい

ひとえに「木」といっても、木にはさまざまな種類があります。育った場所や気候、その他の気象条件など環境が異なれば、たとえ同じ種類でも木の質は微妙に変わってくるのです。

そんな木の不思議な魅力にとりつかれた佐々木要さん<sup>かなめ</sup>が、地元の木材を使って木の器をつくる工房を立ち上げたのは今から9年ほど前。「木目は人の顔と同じ。表情はいつも違うので、見ていて飽きることがないんですよ」。生涯を木に携わることには費やしたいと語ります。

4、5年前からは2人の息子さん(兄の允さん<sup>まこと</sup>、弟の匠さん<sup>たくみ</sup>)が相次いで故郷に戻り、工房を親子でやっていくことになりました。「今後、どうやっていくかは分かりませんが、どうにか家族でやっていく工夫をしていきたいですね」。佐々木さんの顔には、穏やかな笑みが浮かんでいました。



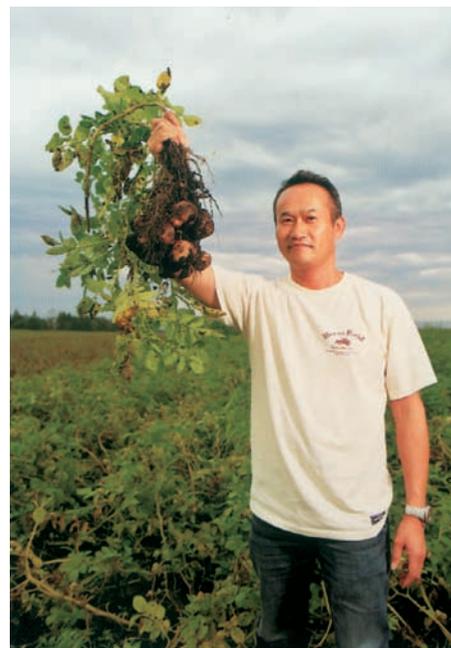
メークインをはじめとするジャガイモが数種類、その他小麦、かぼちゃ、大豆、小豆などを育てています。



命だと折笠さんは言います。

ゆるやかな曲線を描く丘にある折笠さんの畑。広々とした空が見え開放感のあるこの場所も、かつては大木が生い茂る森だったはず。馬と、身近にあった草花で作った緑肥、一年ごとに積み重ねられる先人たちの知恵を忘れることなく、「おいしい」と心と身体が感じる食べ物を作り続ける折笠農場です。

## 幕別の未来を生きる人々



折笠健さん。福島県相馬市から入植して100年が経つ折笠家の4代目。「開拓時代の豊かな土」を目指す。(写真提供/山本謙治さん)

「身体をつくるのは食べ物。自分たちの舌でおいしいものを選びとってほしい」と話す折笠さん。馬耕の時代からこの地に根をおろし農業を続けてきた折笠農場が、大きな転換をはかったのは今から約40年前のことでした。当時増産増収を目指し拡大の一途をたどっていた農業。折笠農場も例外ではなく、ビートの生産量が2年連続で全国1位を獲得したこともありました。ですが、肥料や農薬の量を増やし続けても、同じ分だけ収穫量が増えていかず、その原因として地力の低下があると気付いたのは、健さんの父である秀勝さんでした。

入植時、十分な肥料も薬品もなく、それでも生活していける農作物がとれていたのは土自体に栄養があったから。もう一度、土地そのものを見直すことから始めようと、農薬や化学肥料に頼らないJAS有機農産物作りに取り組みようになりました。次世

## 土に生きる人

おりかさ      ますらお  
**折笠 健さん**  
(折笠農場)

入植時代からてん菜、小麦、ジャガイモ、豆などの産地として畑作が盛んである幕別町。穏やかな丘陵地帯で挑戦を続ける農業者に出会いました。

幕別町字軍岡393番地  
TEL.0155-54-3111



## 幕別の未来を生きる人々



井田家の3代目留吉さん、寿美恵さん夫妻と愛犬ナミ。

## 土に生きる人

い だ と め き ち  
井田 留吉さん  
す み え  
寿美恵さん

(井田牧場)

毎日2回の搾乳。休むことなく生き物と触れ合う酪農家があります。生まれ育った土地に根つきながら、出会いの輪を広げています。

幕別町忠類東宝141番地  
TEL.01558-8-2933



これから出産を迎えるお母さん牛たち(写真右上)。80頭いる牛のうち、搾乳をしているのは50頭ほど。酪農体験の他、バターやアイスクリーム作りの体験も3日前～前日までの予約で可能です。

「誰かが来るってことは見せることだから、片づけもするし、適度な緊張感があるのがいいんだよね」と寿美恵さん。ともすれば、毎日同じ家族と顔を合わせ、同じように仕事をこなし、淡々と過ぎていってしまう日常になりがちな酪農という職業。そこに新しい何かがあることで、自分たちの生活や仕事のやりがいにもなると話してくれました。

この地で生まれ育った寿美恵さん。家のすぐそばでタンチョウの姿を目にすることもあり、「ここから見える日高山脈がきれいですよね。何にもない風景っていいのがいいのかな、って最近では思っています」。ありのままの酪農家の姿や生活を通して、少しでも子どもたちの食に対する意識に変化があれば、と考えているそうです。

忠類の市街地から、1キロほど離れた場所に井田牧場があります。現在は井田さん夫婦と息子さんが酪農を、隣に住むおばあちゃんは畑で野菜作りに精を出しています。

寿美恵さんの祖父が忠類に入植したのは昭和3年のこと。初めは畑作を営んでいましたが、親の代に酪農に転身し現在に至っています。12年前に全国組織である「地域交流体験牧場」に名乗りをあげ、子どもたちが成長し手の離れた5年前に教育ファームの認証も受けました。酪農体験や動物とのふれあいを通して、食と命を学んでもらおうという活動を行っています。

平成22年から宿泊も含め修学旅行生の受け入れも始めました。夕方と朝の搾乳体験、畑仕事等、普段通りの井田さんの生活に学生たちが加わるというスタイル。その日の食卓はいつもよりも、にぎやかになるそうです。

## 幕別の未来を生きる人々



オーナーの正田さん。やわらかな笑顔と凛とした姿勢が印象的。



## くつろぎの時をつくる人

しょうだ あと  
**正田 亜斗さん**  
(cafeうづき)

おいしいコーヒーとお菓子と、ここでしか味わえない穏やかな時間を求めて、人々は車を走らせここにやってきます。

幕別町字新川126番地  
TEL.0155-54-3174  
営業時間 10:30~18:00  
(10~3月は~17:00)  
定休日 月~水曜

じっくり入れられたコーヒーと、焼きあがったばかりのお菓子の香りが立ち込める。シンプルなお菓子の空間に響くのは、かすかに聞こえる心地よい音楽と、テーブルにカップを置いたときのコトリという音だけ。窓からの景色を眺めていると、まるで時間が止まったかのような錯覚にさえ陥ってしまいます。訪れた人々はしばしの間、そんな極上のひとときを過ごし、心を落ち着かせて帰っていきます。

国道38号線沿い、新川にある「cafeうづき」。メニューはコーヒーや紅茶、チャイなどの飲み物と、自家製ケーキが6~7種類。パウンドケーキやクッキー、週末限定で登場する天然酵母のパンなどをテイクアウトすることもできます。建物は、以前農家さんが住んでいた古民家を改装したもの。この場所に出店することを決めてから、幾度も「やめなさい」「続かない」という言葉を耳にしたそ

## 和捻じよ わねんじよ



取材協力  
JA幕別町

平成10年に長芋選果施設から偶然見つけた、毛も毛穴もないすべすべの長芋。これが和捻じよです。表面がデリケートなので、時間と手間をかけて丁寧に収穫されています。通常の長芋よりも甘みが強いのが特徴です。皮をむかずにそのまま調理することができ、料理の幅も広がります。

## ゆり根 ゆりね



取材協力  
JA忠類

収穫までに5~6年を要するゆり根。忠類地区ではゆり根の生産が盛んで、日本全国に出荷されています。研究や勉強を重ね、質の高いゆり根の生産に尽力しています。茶碗蒸しやグラタン、かき揚げなどにして食べるのがお勧め。ほんのりと甘く、ほっこりとした食感を楽しんでください。

## まちの農作物



町には他の地域とは一線を画す、特徴的で魅力的な農作物がたくさんあります。その一部をご紹介します。

## 越冬長ねぎ えつとうながねぎ



取材協力  
JAさつない

春の限られた期間、十勝を中心に店頭に並ぶ越冬長ねぎ。5月中旬に種まき、7月に植え替え、そして翌年の4月下旬に収穫され、出荷まで約1年もの時間がかかります。雪の下で春を待ちつづけた越冬長ねぎは、やわらかく、良い香りがします。口の中で広がる甘みも特徴です。



お店で使われている器はすべて当別町在住の陶芸作家、清水しおりさんの作品。



カウンターにはできたての焼き菓子が、ショーケースの中には、その日食べられるケーキが並んでいます。



様に単にケーキやコーヒーを提供するのではなく「cafe うづき」という空間とそこに流れる時間そのものを提供する。口にするものの美味しさを日々追求するだけでなく、年に3回ほど、正田さんが好きな紙ものや器の作家さんの作品を展示する催しも開いています。

正田さんが「うづきの空」と呼ぶこの場所からの景色。今では空を見ただけで季節の移ろいや明日の天気までわかるようになってきました。お店を閉めて札内の自宅に帰るころ、すっかり日が落ちた空には毎日のように流れ星がこぼれていくのだそうです。この場所にいるからこそ味わうことのできる幸せを大切にしつつ、自分の感性と直感を信じ、まっすぐに進んできた正田さん。気付けば14年、この場所で日々を過ごしてきました。うづきには今日も彼女が生み出す穏やかで心地よい時間が流れています。



### 時間を忘れて自分に還る とっておきの隠れ家的カフェ



うです。今でこそ郊外型のカフェが増えていますが、当時としてはとても珍しいことでした。

正田さん自身、何か明確な意図をもってこの場所を選んだわけではありませんでした。自給自足の生活を好む正田さんのご両親は転勤族だったにも関わらず、昔から引越先でも必ず畑をこしらえていて、お父さんの退職後には札内に家を構えて自宅で畑を始めました。次第にスペースが足りなくなり、手に入れたのがこの土地だったのです。パティシエを目指し道央で仕事をしていた正田さんは当時フランスへの留学も考えていましたが、自分のお店を持てるチャンスに迷いなく決断しました。

ランチや軽食のリクエストもあるそうですが、喫茶に限定しているのは、料理の香りでコーヒーの香りがかき消されてしまうのを避けるため。正田さんが大切にしていることは、お客

## ノースポール・ステイブル

## 幕別 カルチャー



蛭川徹さんと奥さんの氷野秋星(ひのしゅうせい)さん。それに稼ぎ頭のモモ。「楽しく暮らしたもん勝ちですね」と、明るい氷野さんは画家でもある。



生き物と人が平和に暮らすことを求め辿り着いた土地で、現在馬18頭、ヤギ4頭、羊1頭、二トトリ3羽、犬9頭、猫13匹と楽しく暮らしています。

■ 幕別町忠類字共栄161番地3

「馬のことなら何でもできるよ」と笑顔で話すのは蛭川徹さん。6年前に家族と幕別町忠類に移住してきました。「自分たちが普通にできることで、お客さんが喜ぶ手伝いが出来たら嬉しいですよ」。ノースポール・ステイブルでは乗馬やトレッキング、季節によっては馬車やソリなどを体験することが出来ます。とにかく「馬で遊べること」であれば、なんでもお任せあれというスタンスです。

蛭川さんは馬のプロ。元々サラブレットの産地として有名な浦河町生まれ、長年調教や装蹄(そうてい)など馬に関わる仕事をしてきました。「足るを知る」ということを知りましたね。経済的には楽ではないと話す蛭川さんですが、「細々としていても、動物が人を呼んでくれ仕事もいい感じに続けられていますよ。心の豊かさは自分で決めるものですから」。

## 心豊かに動物達と暮らす

## そば工房 百姓(笑)庵

## 幕別 カルチャー



駒島産のごぼうと人参を使った人気メニュー「ごぼう天そば」。



お店の中には、手打ちそばの教室ができるスペースもあります。



長崎勉さん。お父さんが駒島地区に入植し、その後を継いで農家に。

## 自分の畑で育て、打ったそば

駒島地区。悠々と畑が広がる農村地帯の一角に、農家のお父さんが立ち上げた小さなおそば屋さん「百姓(笑)庵」があります。店主は地元農家の2代目長崎勉さん。長崎さんは自分の畑で育てたそばを使って自らそばを打ち、訪れてくれたお客様に一杯ずつ心をこめて振舞います。

長崎さんの打つそばの源流には、小さい頃祖父母が打ってくれたそばの味、自分たちの手で生産したものを食べて喜んでくれる人への感謝、そして農業という仕事への誇りがあります。「ひと昔前の百姓ではなくて、もつとゆとりのある、自信の持てる、笑顔の絶えない、そんな百姓。それこそが『百姓』だと思っています。お客さんが帰りがけに、おいしかったよ、また来るね、と言ってくれると嬉しくてもっとおいしいものを作りたいくなるんです」と長崎さんは話してくれました。

■ 幕別町字駒島514番地  
TEL.0155-57-2727

# 悠湯館



平成16年から新源泉は「琥珀のモール湯」と名付けられました。



屋上には眺めのよい露天風呂。



かつての途別温泉の跡には、今も約20℃の冷泉が湧いています。

途別温泉は大字別奴村途別にあり、札内駅の東方十数駅を距て、無数の丘陵起伏せる麓を横流する途別川畔に湧出す。明治二九年五月、本郡利別太村加藤某なるもの、靈夢によりて之を發見し、試に汲み取り携え歸りて、東京芝区伝染病研究所医学士木村武夫に託し分析したるに、亜留加里反応を呈し、塩味を帯び主として慢性胃腸、痲痺質斯、經久微毒、皮膚病、子宮病等に特効あり、其他萬病に驗ありと云ふ。

『幕別村誌』より



「幾山河 越えさり行かば 寂しさのはてなむ国ぞ けふも旅ゆく」。黒田温泉に滞在中、若山牧水が残した歌が歌碑となっています。



写真右/悠湯館の取締役馬淵樹哉さん。  
写真左/温泉に入った後は、大広間やリラックスルームなどでのんびりとできる場所が整っているのも嬉しいところ。

幕別町字依田126番地  
TEL.0155-56-4321

幕別の温泉の歴史は十勝の中でも古く、明治の終わりから大正にかけては途別川畔に湧いた途別温泉(加藤温泉、黒田温泉)が開業し、荷を運ぶ人々や湯治のお客さんでにぎわっていたといえます。今はすでに加藤温泉、黒田温泉とも廃業してしまいましたが、大正15年には黒田温泉に歌人若山牧水が奥さんと共に訪れ、五日間滞在したという記録が残されています。

その若山牧水ゆかりの地として知られる黒田温泉(大正元年〜昭和15年)のそばにあるのが幕別温泉パークホテル悠湯館です。馬淵輝昭さん(まぶちてるあき)が昭和49年に温泉ボーリングに成功し、その翌年に客室12部屋からオープンした温泉宿です。

昭和53年には鉄筋コンクリート三階建の大広間やバス付きの客室等を増築し、客室は新旧で28室となりました。当時は本州からのツアー旅行者も多く、たくさんのお客様を受け

入れていました。

その後、平成に入るとお客様のニーズが次第に露天風呂に移ってきます。そこで平成15年5月から約5カ月間休止し、古くなった本館を取り壊して屋上露天風呂、ジャグジーバス、サウナ等を備えた大浴場を新築。この時にホテル名に悠湯館を付け加えてリニューアルオープンしました。

翌、平成16年には、より上質な源泉を求めて再びボーリング工事を行いました。以前より泉質が良くなりましたと輝昭さんの息子樹哉さん(たつき)は喜びます。地下約1000メートルから49・6度の高温の温泉が、毎分約340リットル湧出。もちろん悠湯館は、この豊富な湯量を生かし全浴槽源泉100パーセントのかけ流しです。今では温泉好きの人たちがインターネットの口コミ等で悠湯館を知り、全国各地からこのお湯を求めて来館することも少なくありません。

## 町の温泉めぐり

### ナウマン温泉ホテル アルコ236

幕別町忠類白銀町384番地  
TEL.01558-8-3111



「忠類地区はナウマン象とゆり根の街として有名ですが、いい温泉があることはまだまだ知られていないようです。ぜひ一度お立ち寄りください」 菅原政成さん

**忠類の憩いの温泉宿**  
忠類ナウマン象記念館・道の駅忠類に隣接する温泉宿。お湯は無色澄明・無味無臭。アルカリ性が強く、肌がすべすべになり、湯冷めしないのが特徴です。休憩所、ホテル、レストランとくつろぎのスペースが充実しています。

### 十勝幕別温泉 グランヴィリオ

幕別町宇依田384番地  
TEL.0155-56-2121



「北海道・十勝・幕別の良さを存分に味わっていただけるよう、従業員一同心のこもったサービスを心がけています」 高橋健太さん

**丘の上のスパリゾート**  
十勝平野を一望できる温泉ホテル。日帰り入浴可能な温泉施設を併設、かけ流しのモール温泉が楽しめる別名「丘の上の美人の湯」。多彩なお風呂、サウナ、食事処、キッズコーナーを備えた館内で一日中くつろげる場所です。

### 札内 ガーデン温泉

幕別町札内北町55番地  
TEL.0155-55-4000



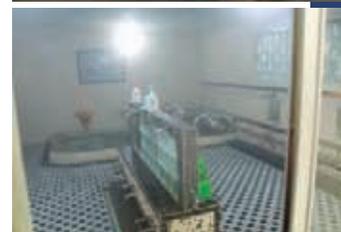
「タオルやシャンプーなどのアメニティが全て無料なので何も待たずに来られても入浴できますよ」 小町悦章さん

**お城の中に湧く至福の湯**  
ヨーロッパ風のお城をモチーフにしたユニークな建物が印象的ですが、お湯はしつかり天然100%のモール温泉。敷地内には冬期間も利用できるパークゴルフ場もあり、地域住民の健康づくりと憩いの場となっています。



なぜかホッとしてしまうレトロな空間。72歳の金岡静男さんは今も元気に番台に座ります。

幕別町錦町53番地  
TEL.0155-54-3500



# 松の湯

幕別の地で、お湯を継ぐ

幕別町本町、役場の向かい側にある銭湯「松の湯」。創業は明治38年、昔ながらの懐かしい雰囲気を残す町の銭湯です。「子どものころから通っている80歳ぐらいのおじいちゃん、おばあちゃん、今でもちらほらいるくらいだからね」と話してくれたのは金岡静男かなおかしずおさん。金岡さんが松の湯を父の要太郎さんから引き継いだのは昭和38年。当時は、夕方ともなれば浴槽に人があふれるほどの盛況ぶり、金岡さんいわく「イモ洗い」状態だったとか。「めっちゃくちやに混んでいたねえ。子どもたちが外で遊んだ後に、泥だらけの仲間みんな連れ立って来るんだもん。そりゃあにぎやかだったさ」。

家庭にユニットバスが普及し、時代の変化とともに銭湯に来るお客さんの数は減っていますが、「ユニットバスじゃ物足りない。家で入るよりここに来た方が得だから」と言ってくれるお客さんは後を絶ちません。



ハイタワー・キンタロウもち  
【杉野菓子店】

チョコとコーヒーの味が楽しめるハイタワー、求肥で梅とあんを包んだキンタロウもち。ともに幕別で生まれたばんえい競走馬の名前からつけました。

杉野菓子店  
幕別町本町122番地  
TEL.0155-54-2502



NEEDSオリジナル4点セット  
【NEEDS】

100年の歴史を持つ幕別町新田牧場の牛乳を原料に、若き職人たちが作るNEEDSのチーズ。人気商品の「大地のほっぺ」は食べやすく日本人向きの味わいです。

(有) NEEDS  
幕別町字新和162番地111  
TEL.0155-57-2511



ハム・ベーコン・ソーセージ  
【うらがみミート】

やぶ田ファーム(清水町)の豚肉を100%使用し、店主・浦上孝さんお手製の薫煙器でゆっくりとスモークされる製品は、肉本来のうま味にあふれています。

うらがみミート  
幕別町忠類白銀町213番地  
TEL.01558-8-2211

安全でおいしい加工品と、幕別が発祥の地であるパークゴルフ製品をご紹介します。

## まちの特産品



十勝産小麦の麺・きな粉  
【小田壱】

十勝産大豆100%のきなこは、独自の焙煎技術で自然な色と香ばしさを引き出しました。うどん・そうめんは十勝産の小麦きたほなみを使用。つりとしたコシに職人の技が光ります。

(株)小田壱  
幕別町札内中央町344番地  
TEL.0155-56-2020



十勝美豆 (とちあびーんず)  
【十勝フーズ JAコープまくべつ】

十勝産の大粒大袖振大豆を蒸煮にし、大豆本来の風味が味わえるよう高真空で缶詰めにしました。下味がついていないので、サラダやシチューに入れたり、毎日の食卓に大活躍します。

(有) 十勝フーズ JAコープまくべつ  
幕別町本町48番地  
TEL.0155-54-4117



クッキー・パウンドケーキ  
【十勝カルメル会修道院】

十勝産の新鮮な卵と北海道産の上白糖を使ったクッキーとパウンドケーキ。型抜きにのみ機械を使い、後はすべて修道女の手作り。子供のおやつにもぴったりです。

十勝カルメル会修道院  
幕別町字日新13番地59  
TEL.0155-56-2541



十勝産野菜の漬物  
【十勝漬物 吉川屋】

幕別産の旬の野菜にこだわった完全無添加のお漬物。社長の吉川トシコさんは「孫世代のために安全な食材を提供したい」と考え、55歳から吉川屋を始めました。

十勝漬物 吉川屋  
幕別町字明野540番地  
TEL.0155-54-5227



ナウマン饅頭・ゆり羊羹  
【しま菓子舗】

名物ナウマン饅頭は、厳選した小豆を練り、甘さを抑えたあんを贅沢に詰めました。お茶請けには最高のサイズ。忠類特産のゆり根が入っているゆり羊羹もお薦めです。

しま菓子舗  
幕別町忠類本町128番地  
TEL.01558-8-2407



牛乳豆腐とのむヨーグルト  
【マルベリーファーム 桑原牧場】

すべての乳製品に自家製牛乳を使い、のむヨーグルトは濃厚な味わいが特徴。初乳だけで作るという牛乳豆腐も酪農家ならではの珍しい逸品です。

マルベリーファーム 桑原牧場  
幕別町忠類新生106番地  
TEL.01558-8-2905



十勝マイタケしょうゆ  
【菅設備】

独自の製法で舞茸と椎茸のエキスを抽出し、キノコ独特の臭いを消して本醸造の醤油に加えました。塩分控えめで、まろやかなうま味あふれる醤油です。

(有)菅設備  
幕別町札内中央町319番地36  
TEL.0155-56-3026



キムチ  
【共栄ピクルス食品】

共栄ピクルスのキムチや漬物の特徴は、十勝自慢のおいしい野菜や海産物をふんだんに使って製造していること。こだわりの逸品ぞろいです。

(有)共栄ピクルス食品  
幕別町字日新23番地6  
TEL.0155-56-5176

パークゴルフクラブ



【ニッタクス】

幕別町でパークゴルフが生まれた1983年(昭58)にクラブの製造を開始。プレイヤーの立場に立ち、打ちやすく使いやすいクラブ、バッグや小物などの商品を提供し続けています。

(株)ニッタクス  
幕別町新町68番地  
TEL.0155-54-2131



【ピポット】

道産の銘木やこぶの木の天然空を生かし、個人の特性を考慮したクラブをオーダーメイドで作製します。職人の手作りですので、プレイヤーの満足度を引き上げてくれます。

(有)ピポット  
幕別町字相川576番地  
TEL.0155-54-3131



十勝まんじゅう・げんきなこ  
【あらかわ菓子舗】

幕別町老舗のお菓子屋さん。十勝まんじゅうは黒糖・カボチャ・よもぎなど全部で5種類の味。げんきなこは、幕別産の黒豆に黒すりごまとココアをブレンドしました。

あらかわ菓子舗  
幕別町本町91番地11  
TEL.0155-54-2523



ジンギスカン  
【サカモト食品】

厳選した羊肉を、果物・野菜をたっぷり使用したオリジナルの醤油ベースのタレで味付けしました。十勝幕別町を代表する一品。季節の野菜と一緒に召し上がりください。

(有)サカモト食品  
幕別町札内桜町136番地  
TEL.0155-23-6006

# パークゴルフの町 幕別町



## 人と自然と親しむ、 コミュニティスポーツ

クラブ1本とボールが1つあれば、お年寄りから子どもまでだれでも気軽に楽しめるスポーツがパークゴルフです。ルールも簡単で親しみやすく、なおかつゴルフの要素も反映されているので初心者からベテランまで楽しみ方の幅がとても広いのも特徴です。

樹木や適度な起伏のある公園や河川敷、遊休地などを利用して造られたコースの中を歩きながら、ゲームに熱中しているうちに、心も身体もリフレッシュできます。競技志向というよりも、コミュニケーションに重点を置いたスポーツであるため、昭和58年に誕生して以来、愛好者の数はどんどん増えて、今では124万人を超えるほどになりました。(日本パークゴルフ協会調べ)

### 【パークゴルフ誕生ストーリー】

昭和58年5月、当時の教育委員会教育部長が、社会体育の分野におけるコミュニティスポーツの取り組みが必要であるとの思いから、社会教育課に「何か面白いスポーツはないか」と呼びかけました。社会教育課の係長と体育担当主査はちょうどその時、日本レクリエーション協会を通じて『グラウンドゴルフ』の用具一式を購入しており、それを教育部長に提示した事がきっかけとなりました。

グラウンドゴルフは、昭和57年に鳥取県泊村の教育委員会が中心となって考案された新しいスポーツでした。それを早速、町営野球場で試してみました。その感触はあまり良いものではなく、爽快感を加えるために、グラウンドから芝生へと場所を替えてみることにしたのです。このようにしてパークゴルフは誕生しました。

昭和58年6月に作られた、幕別運動公園の7ホールの固定コースが最初のパークゴルフ場です。公園に穴を掘ってコースを造ることは、当時としては少し乱暴な発想でした。しかし相談を受けた公園管理の担当者は町のパークゴルフへの思いに大変共感しました。上司に相談するよりも先に、積極的に穴掘りを手伝ってしまったことも、結果としては今日の普及発展につながっているのです。



### 【あゆみ】

- 1983 (昭和58年) 6月 パークゴルフを考案。幕別運動公園に7ホールのコース誕生。(現つつじコース)
- 1984 (昭和59年) 5月 運動公園のコースを14ホールに拡張。
- 1985 (昭和60年) 5月 運動公園のコースを18ホールに拡張し「つつじコース」と決定する。  
9月 エルムコースが完成。
- 1986 (昭和61年) 7月 俳句村コース、さくらコースが完成。
- 1987 (昭和62年) 7月 サーモンコースが完成。  
8月 国際パークゴルフ(PG)協会が結成。第1回PG国際大会を開催。
- 1989 (平成元年) 7月 「はまなす国体」スポーツ百選を受賞。
- 1992 (平成4年) 5月 つつじコースにPG発祥の碑建立。
- 1993 (平成5年) 9月 PG発足10周年。クマガラハウス完成。
- 2000 (平成12年) 6月 国際PG協会がNPO法人となる。
- 2006 (平成18年) 8月 第20回PG国際大会。  
9月 PG発祥20周年。IPGA設立20周年。
- 2009 (平成21年) 9月 ねんりんピックのPG大会が幕別で開催。
- 2011 (平成23年) 3月 特定非営利活動法人国際PG協会が公益社団法人日本PG協会へ変更となる

### 【幕別町内のパークゴルフ場】 (所在地/開設年)

- つつじ(運動公園/1984年)
- エルム(白人公園/1985年)
- さくら(明野ヶ丘公園/1986年)
- サーモン(猿別川河川緑地/1987年)
- やまびこ(糠内公園/1988年)
- ちろっとの森・西(スマイルパーク/1991年)
- ちろっとの森・東(スマイルパーク/1999年)
- 俳句村(依田公園/1986年)
- 牧水の森(依田公園/1991年)
- 新田の森(新田の森/1994年)
- はらっぱ36(札内川河川緑地/1995年)
- あかしや・途別(途別公園/1988年)
- 明倫(明倫公園/1991年)
- ファミリー(ナウマン公園/1991年)
- チャンピオン(ナウマン公園/1991年)
- 札内ガーデン温泉(1999年)
- こんびら公園(2001年)

## 忠類シニアファッションショー

## 幕別 カルチャー



忠類シニアファッションショー  
実行委員長 武内悠紀夫(ゆきお)さん  
シニアクラブ代表を務めるほか、シー  
ニックカフェの立ち上げにも関わる。  
地域活性化のために精力的に活動し、  
他町村からの講演依頼も多数。

### 【忠類シニアファッションショー&歌謡ショー】

- 第1回 平成22年9月11日(土)開催
- 第2回 平成23年10月29日(土)開催

会場：忠類コミュニティセンター大ホール

主催：忠類シニアファッションショー実行委員会  
後援：幕別町、忠類魅力づくり会議、忠類料理研究会、道の駅周辺4施設連絡協議会、パオ  
スクラブ、忠類6次産業プロジェクト、JA忠類、幕別町商工会、幕別町観光物産協会  
協力：しらかば大学ナウマン校、忠類シニアクラブ、ボランティアしらかばの会、結の会

平成23年10月29日、第2回目となる忠類シニアファッションショーが開催されました。タンスに眠る着物をベストやブラウス、スーツ、ロングドレスなど現代風にアレンジした「リメイク着物」を着た総勢68組のモデルが登場するこのショーですが、実はモデルは皆60歳以上の高齢者。プロのメイクさんにお化粧を施してもらい、衣装を身につけて舞台上立つ様子はハツとするほど美しく、生き生きとしています。

このショーは地域の活性化を行政に任せきりにするのではなく、地元住民、特に高齢者が自発的に盛り上げていこうという思いから、実行委員長の武内さんを中心に各方面から多くの協力を得て作り上げられてきました。みんなで何かを作り上げたり、非日常的な空間に身を置くことで、心が元気になる。他地域の高齢者大学、シニアクラブからも注目を集めています。

## 平均年齢76歳のモデル達

## パークゴルフ

## 幕別 カルチャー



歴代のクラブ。右側にいくほど新しいモデルになっています。開発チームが日々研究にあたり毎年進化したクラブを提供しています。力まなくてもボールに力が伝わる、使っていて疲れないクラブづくりに力を注ぎます。



## パークゴルフとともに歩む



幕別町が発祥の地であるパークゴルフ。町内にはたくさんコースがあり、無料で楽しむことができる場所も多数あります。



株式会社ニツタクス十勝工場 工場長  
パークゴルフ用具工業会 会長  
新田潔(きよし)さん

株式会社ニツタクスは、大正8年創業の老舗。木材のはり合わせの技術を活かし、合板や家具、そしてパークゴルフのクラブなどを製作しています。日本パークゴルフ協会の前原会長が、グラウンドゴルフをもとに試行錯誤して生まれたパークゴルフ。当初はグラウンドゴルフのクラブを使用していたが、用途が異なるため壊れることも多く、その修理を受けていたニツタクスが専用クラブの製造を、独自に始めたのです。普及活動にも力を入れており、東京、大阪、名古屋、札幌の各拠点を通じ、全国にパークゴルフの魅力を伝え続けています。工場長の新田さんは「すそ野を広げる活動を今後も続けていきたいと思っています。幕別町では毎日でもパークゴルフができる環境が整っているのです、一人でも多くの人の生活にパークゴルフを根付かせたいです」と語ってくれました。

## まちの憩いスポット

### 明野ヶ丘公園

幕別町字明野496番地20



開基100年を記念してつくられたシンボルとしての展望施設「ピラ・リ」。そこからの眺めはとても美しく、幕別の市街地や、畑作風景、日高山脈を一望できます。公園は25万平方メートルの広大な敷地を誇りパークゴルフ場やアスレチックが充実しています。ファミリリーをはじめとしたさまざまな人でにぎわうスポットとなっています。

### ナウマン公園

幕別町忠類字忠類390番地



ナウマン象の親子のオブジェが印象的な公園。噴水があり子供たちは水遊びにおおはしゃぎ。バーベキューハウスもあり、さまざまな用途で楽しめる公園です。パークゴルフ場、道の駅、ナウマン象記念館、温泉などが隣接しており、一日中飽きずに過ごせるエリアとして、地元の人に愛されています。

### 明野ヶ丘スキー場

幕別町字明野496番地18



昭和53年に明野ヶ丘公園の一部、北東の斜面を利用してスキー場として供用を開始。昭和54年と57年に夜間照明を設置し、長くウインタースポーツが楽しめるようになりました。平成15年にはペアリフトの設置で機能が充実。昭和60年には幕別スキー学校も始まり、町民から親しまれるスキー場となっています。

### 忠類白銀台スキー場

幕別町忠類白銀町415番地



南十勝で唯一のゲレンデ。上級者から幼児まで楽しめるファミリリーゲレンデです。ペアリフト、ナイター照明も完備され、爽快に滑ることが出来ます。スキー学校は幼児からシルバーまで各種コースあり。スキーやスノーボードのレンタルもしています。ロッジには食堂と売店があり、味噌ラーメンがおすすめです。

## 幕別町出身のスポーツ人

世界を舞台に活躍する幕別町出身のスポーツ選手たち。  
彼らは私たちふるさとの誇りであり、  
また未来を担う子どもたちのお手本でもあります。

### 福島 千里選手（陸上）



第29回オリンピック競技大会  
(2008年中国北京) 陸上競技女  
子100mに出場。第16回アジア  
競技大会(2010年/中国広州)  
女子100m、200mで金メダル  
を獲得  
生年月日/ 1988年6月27日

### 高木 美帆選手（スピードスケート）



第21回オリンピック冬季競技  
大会(2010年カナダバンクー  
バー) 女子スピードスケートに  
日本の五輪代表としては、史上  
最年少(当時は中学生)で出場  
生年月日/ 1994年5月22日

### 山本 幸平選手（モトクロス）



第29回オリンピック競技大会  
(2008年中国北京) MTB男子  
クロスカンントリーに出場。第16  
回アジア競技大会(2010年中国  
広州)で銀メダルを獲得  
生年月日/ 1985年8月20日

## お立寄りスポット

### 道の駅 忠類

幕別町忠類白銀町384番地12  
TEL.01558-8-3236  
開館時間/ 9:00~18:00  
休館日/ 年末年始



買物に食事、観光情報、道  
路情報など、南十勝の特産品  
や情報はここで。パン工房  
も併設しているの、作り立  
てのオリジナルパンを販売。  
地元の方々による手作りの  
品や特産物である「ゆり根」  
を使ったさまざまな加工品  
も充実しています。

### シーニックカフェ ちゅうるい

幕別町忠類共栄牧場内 東屋  
TEL.01558-8-2141  
(幕別町商工会忠類支所)  
営業期間/ 7/1~9/30の土・日曜  
10:00~15:00  
※期間中、雨天の場合は休業



日高山脈や農村風景、太平洋  
を望む丘に位置する休憩ス  
ペースです。コーヒーやお  
やつのサービスも他、定期的  
にコンサートも開催。ビュ  
ースポットとしてもお勧めで  
す。雄大な自然の中で、憩い  
の時間をお過ごしください。

丘のうえにガーデンが広がる十勝ヒルズでは、季節ごとの花や植物を楽しむことができます。



新田牧場で見られる樹齢100年を超えるカシワの巨木。

丸山展望台からの風景。忠類市街を一望できるほか、日高山脈を眺めることも可能です。



幕別町  
ドライブ  
MAP

南勢牧場では、ゆったりと暮らす牛や馬の姿を見ることができます。展望台からの景色も絶景です。



はるか遠くまで広がる畑作地帯。幕別の農道を走ると見ることができる、十勝ならではの風景です。

季節を魅せるビューポイント

日高山脈を見ることができるスポットは数多くありますが、とくにお薦めのスポットがこちら。美しく雄大な日高山脈は圧巻です。



道道豊頃糠内芽室線62号線の下り坂の道からの風景。一直線に伸びる道路に吸い込まれそうな景色です。

忠類共栄牧場の放牧風景。ここだけ時間がゆっくり流れているかのようです。



# まちの未来

## ■ 地勢など

幕別町は、西は十勝の中核都市帯広市と更別村に、北は音更町と池田町、東は豊頃町、南は大樹町に隣接しています。北に十勝川、西に札内川、中央部を幕別川、そして南に当縁川が流れ、西方に日高山脈を一望できる、平地や段丘が広がる豊かな自然に恵まれた地域です。

## ■ 人口・世帯数

平成23年11月末現在の人口と世帯数の合計は27,546人11,742世帯です。幕別地域は、人口、世帯数とも年々増加してきており、忠類地域についても、人口減少に歯止めがかかり、近年安定した状態が続いています。

## ■ 面積

十勝管内の市町村面積でみると合併前、幕別町16番目、忠類村20番目であった面積が、芽室町に次ぐ11番目の面積、478km<sup>2</sup>となりました。

## ■ アクセス

 エア・バス  
東 京—とかち帯広空港(約90分)

## ■ JR

札 幌—JR帯広駅(約140分)  
南千歳—JR帯広駅(約110分)  
釧 路—JR帯広駅(90分)

## ■ 自動車

とかち帯広空港—幕別町(約30分)  
とかち帯広空港—幕別町忠類市街(約25分)  
JR帯広駅—幕別町(約20分)  
JR帯広駅—幕別町忠類市街(約50分)  
札 幌—幕別町(約270分)  
釧 路—幕別町(約120分)  
幕別町市街—幕別町忠類市街(約45分)



人と大地が躍動し  
みんなで築く  
ふれあいの郷土

助け合い、支え合い、この魅力あふれるまちを  
未来の子どもたちのために守り、発展させていきます。

### 協働と創造

ともに考えともに創る活力あるまちづくり

- 交流・連携の推進
- コミュニティ活動の推進
- 広報・広聴活動の充実
- 行政体制、財政運営の効率化 など

### 安全な食の供給

農業を核に競争力のある産業のまちづくり

- 農林水産業の振興
- 商工業の振興
- 観光の振興
- 雇用の場の創出 など

### 安心と思いやり

笑顔ゆきかう健康とやすらぎのあるまちづくり

- 保険・医療・福祉サービスの向上
- 高齢者福祉等の充実
- 子育て支援体制の充実
- 介護保険事業の充実 など

### ゆとりと個性

文化の香る心豊かな学びのまちづくり

- 生涯学習の推進
- 幼児教育・学校教育の充実
- 文化・芸術活動の推進
- スポーツ・レクリエーション活動の推進 など

### 環境と生活

自然とともに生きる環境にやさしいまちづくり

- 自然環境の保全
- 道路・交通網の整備
- 快適な住環境の整備
- 防災・消防体制の充実 など



## 【幕別町今昔物語】

- 1882(明治15年) 細谷十太夫が止若に居住。幕別の開拓始まる。
- 1894(明治27年) 岡田新三郎が丸山南麓に単身入地。忠類の開拓始まる。
- 1897(明治30年) 猿別市街に幕別外六カ村戸長役場開庁。開基元年。
- 1900(明治33年) 晩成社の依田勉三、途別で開田。
- 1905(明治38年) 利別・帯広間の鉄道開通、止若停車場が営業開始。
- 1910(明治43年) 札内市街に停車場開業。
- 1930(昭和5年) 国鉄広尾線忠類駅開業。
- 1946(昭和21年) 開基50年。町制を施行し「幕別町」となる。
- 1947(昭和22年) 新田牧場で池部良、高峰秀子主演「愛と星とともに」の映画ロケ撮影。
- 1949(昭和24年) 大樹村から分村して忠類村が開村。
- 1959(昭和34年) 蝦夷文化考古館完成。
- 1962(昭和37年) 忠類地区でゆり根の栽培開始。
- 1963(昭和38年) 止若駅を幕別駅と改称。
- 1966(昭和41年) 開基70年。幕別町歌、幕別音頭、町民憲章を制定。町民会館完成。
- 1969(昭和44年) 晩成の農道工事現場でナウマン象の化石骨が発見される。
- 1972(昭和47年) 現役場庁舎完成。
- 1974(昭和49年) 札内福祉センター完成。
- 1976(昭和51年) 忠類コミュニティセンター完成。
- 1978(昭和53年) 第1回「まくべつ産業まつり」を開催。
- 1979(昭和54年) ふるさと館オープン。
- 1983(昭和58年) パークゴルフが誕生。
- 1984(昭和59年) 白銀台スキー場で第1回「自作そり滑走競技大会」を開催。
- 1985(昭和60年) まくべつ町民芸術劇場発足。
- 1987(昭和62年) 国際パークゴルフ協会結成。
- 1993(平成5年) ナウマン象記念館近くに「道の駅」が登録。
- 1994(平成6年) ナウマン温泉「アルコ236」がオープン。
- 1996(平成8年) 幕別町開基100年、町制施行50周年。百年記念ホール、保健福祉センター、クロニクル・スパイラル、ヒラ・リ完成。
- 1998(昭和63年) 第1回「忠類どんとこいむら祭り」を開催。第1回「まくべつフェスタ」を開催。
- 1999(平成11年) 忠類村開村50周年記念式典を開催。
- 2002(平成14年) 幕別町農業担い手支援センター完成。
- 2006(平成18年) 幕別町・忠類村合併。
- 2007(平成19年) 道の駅・忠類オーブン。
- 2008(平成20年) 北京五輪に福島千里、山本幸平選手が出場。
- 2009(平成21年) バンクーバー五輪に高木美帆選手が出場。
- 2010(平成22年) 戸籍業務の電算化開始。

**パークゴルフ国際大会**

各国からパークゴルフ愛好者が集まる大会で、国際交流の面からも大いに注目されています。パークゴルフが広く親しまれていることを再確認させてくれる大会です。



**札内夏まつり**

地域の小中学生やサークルの演奏やよさこいを披露。夏の訪れを祝います。目玉は江陵高校の行灯パレード。巨大な行灯が札内の街を照らします。



**まくべつ夏フェスタ**

ビールパーティーや幕別高校の仮装ダンスパフォーマンス、抽選会など内容盛りだくさん！夏の夜空を彩る花火が鮮やかにフィナーレを飾ります。



**忠類どんとこいむら祭り**

忠類地区で行われている収穫祭。牛の丸焼きの販売をはじめ食用ユリ根やジャガイモ、ゴボウなどの地場農産物の販売が行われます。羊毛加工実演会、豆のすくい取りも楽しめます。



**忠類ナウマン全道そり大会**

ダンボール製のそりによって、スピードやパフォーマンスを競うそり大会。毎年、奇抜なそりが登場し会場を盛り上げてくれます。大人も子どもも気軽に楽しめるイベントです。



**幕別**

- 6月上旬 ……幕別町畜産祭り
- 6～7月 ……パークゴルフ国際大会
- 7月上旬 ……札内夏まつり
- 7月中旬 ……まくべつ夏フェスタ
- 8月中旬 ……まくべつ盆踊り
- 10月第1日曜…まくべつ産業まつり

**忠類**

- 8月中旬 ……ちゅうるい夏まつり
- 8月14日 ……忠類ふるさと盆踊り大会
- 10月第3日曜…忠類どんとこいむら祭り
- 2月第3日曜 ……忠類ナウマン全道そり大会



**忠類ナウマン象記念館**

幕別町忠類白銀町383番地1  
tel.01558-8-2826



**蝦夷文化考古館**

幕別町字千住114番地1  
tel.0155-56-4899



**農業者  
トレーニングセンター**

幕別町錦町98番地  
tel.0155-54-2106



**札内スポーツセンター**

幕別町札内暁町287番地  
tel.0155-56-4083



**パークゴルフクラブハウス  
(クマゲラハウス)**

幕別町本町160番地  
tel.0155-54-2289



**明野ヶ丘スキー場**

幕別町字明野496番地18  
tel.0155-54-4865



**白銀台スキー場**

幕別町忠類白銀町415番地  
tel.01558-8-2024



**財団法人  
農業担い手支援センター  
(農業振興公社)**

幕別町字新和162番地128  
tel.0155-57-2711



**ふるさと味覚工房**

幕別町字新和162番地128  
tel.0155-57-2001



**ナウマン温泉ホテル  
アルコ236**

幕別町忠類白銀町384番地1  
tel.01558-8-3111



**図書館**

幕別町新町122番地7  
tel.0155-54-4488



**町民会館**

幕別町本町144番地  
tel.0155-54-3030



**百年記念ホール**

幕別町字千住180番地1  
tel.0155-56-8600



**ふるさと館**

幕別町字依田384番地3  
tel.0155-56-3117



**幕別町役場**

幕別町本町130番地  
tel.0155-54-2111



**幕別町役場忠類総合支所**

幕別町忠類錦町439番地1  
tel.01558-8-2111



**幕別町役場札内支所**

幕別町札内青葉町311番地3  
tel.0155-56-2111



**糠内出張所**

幕別町字糠内251番地1  
tel.0155-57-2140



**保健福祉センター**

幕別町新町122番地1  
tel.0155-54-3811



**忠類ふれあいセンター  
福寿**

幕別町忠類白銀町384番地10  
tel.01558-8-2910



**老人福祉センター**

幕別町字依田381番地1  
tel.0155-56-5445



幕別町の至るところで目にするカシワの木からは、  
たくましい生命力が伝わってきます。  
カシワの木は幕別町の象徴でもあります。

丘のあるまち、幕別町に暮らす

---

## 幕別町 町勢要覧 2011

発行／幕別町 〒089-0692 北海道中川郡幕別町本町130番地  
TEL.0155-54-2111 FAX.0155-54-3727 <http://www.town.makubetsu.lg.jp>  
発行日 平成23年12月